

★今週の聖句

「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。」 ルカによる福音書 17:3

★ねらい

・今週の聖句の大切さをまずしっかりと理解する。他者に対して、だめなことをだめといい、ごめんなさいと反省したら赦す、ということの大切さを。その上で、このイエスさまの言葉を具体的に実践することについて想像し、その困難さと理由について考えてみたい。

そのことを通して、「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい」というメッセージを、遂行的なものとして伝える（ことを目指したい）。

★ 説教作成のヒント

・イエスさまからの教えを、イエスさまの側に立って（イエスさまに代わって）子どもたちに伝えるのではなく、説教者自身がイエスさまの教えに耳を傾ける者として、それを子どもたちと分かち合うということを心がけてほしい。これは今回に限らず、説教とは、説教者が、神さまに代わって、イエスさまに代わって語ることでないことを常々心に留めてほしい。

★ 豆知識

・今週のルカ福音書のイエスさまの言葉の中に「小さい者」（17:2）というものがある。ここはマルコ福音書9:42節以下の並行箇所である。読み比べてみると明らかだが、イエスさまの同じ発言に見えるこの単語、指すものが違っている。ルカ福音書の「小さい者」は、イエスさまを信仰するキリスト者（弟子たち）を指し、マルコ福音書の「小さな者」は、ペテロたちの弟子集団に加わることはしないが、イエスさまの名前を用いて治癒活動を行っている人たちを指している。

ルカ版イエスを絶対視するとマルコ版イエスと矛盾し、マルコ版イエスを絶対視するとルカ版イエスと矛盾する。聖書の深みは実はこんなところにあたりするのだ。

★ 説教

今日の聖書の中でイエスさまの言われていること、「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい」は、ほんとうにそのとおりだと思います。

友だちが悪いことをしていたら「だめだよ」と言ってあげること、その友だちが「ごめんなさい」と謝ったなら「いいよ」と赦してあげること、これが人と人との関係において大切なことは、みんなも賛成してくれるでしょう。

さて、その上で少し考えてみましょう。

ある友だちが、自分より年上で、みんなの人気者で、ケンカも強い人であることを想像してみてください。もしあなたが、その友だちが悪いことをしているのを見つけたとき、「だめだよ」と戒めることができるでしょうか。

「もちろんできるよ」という人もいるでしょう。だけど、自分の胸に手を当てて、心の中を静かにのぞいてみると、それが間違っていると分かっているのに、「だめだよ」と戒められる人と「だめだよ」と戒められない人がいる、という自分に思い至るかもしれません。

実をいうと、僕も、自分の胸に手を当てて心の中をのぞいてみると、それが間違っている（それが誰かを傷つけることになってしまう）ことが分かっているのに、「だめだよ」と言うことに躊躇してしまうことのある自分に思い至ります。

それはなぜなのでしょう。それは、僕たちが、ことの善悪の前に（それが間違っているかそうでないかの前に）、多数派で力の強い側に属したいという心を優先させてしまうからだと思います。たぶん僕たちは、少数派で力の弱い側にいたくない、不安だから、という心を持っているのです。そしてそこから、間違っていると分かっているのに「だめだよ」と言うことに躊躇してしまう心がむくむく

と生まれてくるのです。

僕たちはまずそのことを認めたい、と思います。そんな弱さを持っていることを。

少し難しいかもしれないけど、次の大沼保昭さんの文章を読んでみてください。「(略) むろん、私たち大多数の人間は凡人であって英雄ではない。そうで在る以上、実際に戦争になってしまったら、たとえそれが不義の戦いとわかっていても、国家命令への不服従という行動はとれないかもしれない。しかし、そのような弱い私たちでも、勇気ある行動をとる人々(15年戦争時に命がけで反対した人たち)をひそかに励まし、あるいはすくなくとも「村八分」にしないことはできる。そして何よりも、私たちは戦争になってしまえば国家命令に抵抗できないだろう自分の弱さを知っているからこそ、自分をそのような状況に追い込まないように、弱い自分でも声を出すことのできるうちに、戦争に向かうような国家政策に対しては、「否」といっておかなければならない」。

※「戦争」を「いじめ」「原発問題」など身近な問題に置き換え、「国家」を「多数派で力の強い側」と置換えて読んでみてください。

僕たちが、自分の弱さを認めつつ、自分なりに考え、自分なりに行動することが、とても大切なことなのだと思います。それをイエスさまは、「悔い改め」(ギリシャ語でメタノイア<心(考え)の方向転換の意味>)と言われたのだと思います。

★分級への展開

さんびしよう

＊讃美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

□ 5 7 番

□ 改訂 3 4 番

やってみよう

★お友だちに嫌な事しちゃったな。家族に嫌な事言っちゃったなという

気持ちでいる時、許してもらえたらどんなに嬉しいかを体感してみよう！

☆用意する物(紙・えんぴつ・消しゴム・箱)

①学校で、家で、放課後や学童で、近所の子と遊んでいる時、

友だちや家族(お父さんお母さん妹弟兄姉祖父母)などに対して
意地悪をしたり、悲しい思いをさせたりした事を紙に書いてご覧。

1人1枚でも2枚でも(小学生低学年や幼稚園保育園児はヒントを
与えたり、聞き取って代筆したりしてサポートする)書く。

②書いたら箱に入れる。さっきまで軽い箱だったのに今は持てないくらい
重い箱になっています。みんなのした嫌なことがぎゅっしりつまっているから。

③どうしたらこの箱軽くなる?一緒に考える時間を設ける。

「許してもらおう」 → 「どうすれば許してもらえる?」 → 「いけなかったな
悪かったなと思う」

④反対に友だちに嫌なことされたら怒りたくなるよね。でも友だちに

「ごねんね、もうしないよ」って言われたら許してあげるよね。

⑤みんなの嫌な気持ちで重くなったこの箱、みんなが悪かったなと思えば
きっと許してもらえるはずです。そうすると気持ちが明るくなって、心が
軽くなるね。そうするとこの箱も軽くなるのです。

⑥すべてを御存じの神様に今日の学びを報告しつつ、友だち同士、家族同士、
嫌なことを見たり聞いたりした時にはいけないと言える勇気を与えて
くださいとお祈りしましょう。

話してみよう

I. ①昨日までの1週間で家族やお友達とのやりとりで、とても腹の立ったことを思い出して、書いてみましょう。

②自分がしたことで誰かを怒らせたかも、と思ったことを思い出して書いてみましょう。→発表できる子どもは発表する。

イエス様は、そういう時どうしたら良いとおっしゃったでしょうか。

II. 説教の中で紹介した大沼保昭さんの文章にある「戦争」を身近な問題に、「国家」を「多数派で力の強い側」に置換えて、自分たちならどう考え、行動するかを考えてみよう。

自分は絶対正しいと主張する人たち（自らを省みない人たち）と、自分の弱さを自覚しつつ正しいとは何かを考える人は、ふるまいが違うことを話してみよう。きっと、子どもたちのほうが、直感的にこの違いがわかるはずだから。

★今週の聖句

「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

ルカによる福音書 17:19

★ ねらい

- ・ イエスさまのもとに戻ってきた人だけを賞賛するのではなく、その意味を考える。

★ 説教作成のヒント

- ・ 重い皮膚病を患っていた人たちがどのような状況に置かれていたのか、その背景を理解する。

★ 豆知識

- ・ 1987年に出版された新共同訳聖書では「らい病」と訳されていたが、1996年のら予防法廃止に伴い、翌年1997年に「重い皮膚病」と改訳された。ただし、日本聖書協会は訳語として検討の余地があることを認めている。

★ 説教

今日の福音書は、ルカによる福音書「らい病を患っている10人の人をいやす」という小見出しのついている物語です。私たちの今の聖書では「重い皮膚病を患っている10人の人をいやす」という訳になっています。「らい病」という言葉が差別用語になるので「重い皮膚病」と改訳されました。しかし、この物語を理解するには、その背景にある「差別」という問題を考えなくてははいけません。「あいつはライだ」という言葉は、「あいつに近寄ってはいけない」「あいつは私たちと同じ人間ではない」という意味で使われてきました。ですから、「重い皮膚病」と訳してその背景をぼかさずに、今回は、ここを「らい病を患った人」としたいと思います。

次のようなお話です。『イエスさまがある村に入ったとき、10人のらい患者が遠くの方からイエスさまに呼びかけます。当時（最近まで）、らい病を患っている人たちは、「人」として当たり前に生きることができませんでした。彼らは汚れた者として隔離されていたので、普通の人になんか近づくことができなかったのです。イエスさまはこの10人を癒されます。しかし、イエスさまのもとに感謝するために戻ってきたのはたった一人だけでした。イエスさまはその人に言われました。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。』

さて私たちは、イエスさまに感謝しに戻って来なかった9人に対して、「あなたたちは「ライ」と呼ばれ、人として当たり前に生きることができなかった。それをイエスさまが癒してくださったのにもかかわらず、感謝しに戻ってこないなんてけしからん」と思ったりしないでしょうか。

しかし、ここで考えてみたいのです。私たちは、「あなたは病気だから人ではない」と言われたら、怒りこそすれ、そう言われても仕方がないとは決して思わないでしょう。この物語に登場する10人のらい病を患っていた人たちは、「あなたたちはライだから人ではない」と言われ、共同体から疎外されていた人たちでした。そして、そのことに「それはおかしい」と声をあげる権利もなかった、つまり、人としての尊厳も奪われていた人たちでした。それは決して、仕方がない、という言葉ですすすすることができないことです。そしてこれは、今から2千年前の遠い外国だけの話ではありません。日本においても、癩予防法という法律が1907年に施行され、1953年に「らい予防法」となり、1996年に廃止されるまで（わずか17年前です！）、公共の福祉のため（みんなのため）という理由で、隔離政策が続けられてきました。私たちは、「あなたはライなので、公共の福祉のため、みんなのために、私たちの共同体から外れた所で生きてください」と彼らを疎外し続けた側にいることを忘れてはいけない、と思います。そうであれば、先述の物語の中の9人は、そのことに気づかされた人たちだと言えます。人として普通に生きられることは「当然」のことなんだ、と。私たちは、この9人の意見に同意することから出発したいと思うのです。なぜなら、彼らに感謝を強要するのは、

らい患者にその強制隔離を止めた人に感謝しなさい、ということと同じだからです。私たちは、彼らを共同体に再び迎え入れるとき、彼らに感謝を強要することができるのでしょうか。決してできません。日本に住む私たちは、とくに、らい病の治療法が発見され（それは1941年）世界的に隔離政策をやめる方向にあった時に、強制隔離政策を実施し続け、また長い間それを放置したままでした。私たちは、知らない（関わらない）ということを通して、らい病の人たちを隔離し続けて来たのだと思います。そんな私たちが、今日の福音書を読む時に、「あなたたちは、「ライ」と呼ばれ、人として当たり前で生きることができなかった。それをイエスさまが癒してくださったのに、感謝しに帰ってこないなんてけしからん」などと言うことはできません。私たちは、ごめんなさいと頭を足れ、彼らに赦しを求めることしかできないのではないのでしょうか。

しかし、そんなときに、一人の人が戻ってきます。大声で神を讃美しながら。このとき、そのたった一人だけがなした感謝とはどのようなものなのか、この箇所をそう問い直したいのです。それは、決して「強制隔離を止めてくれてありがとう」「共同体に迎え入れてくれてありがとう」という意味の感謝ではありません。彼は、人として当たり前で生きられることを、大声で神に感謝を捧げたのです。私たちは、人が人として生きていくことができることを、当然のことだと思っています。しかし、彼は、ただそのことだけを喜び感謝しているのです。そして、彼が、そのことに気付くことができたのは、「人との（イエスさまとの）関わり」を通してでした。他者との関わりのないところは、絶望の暗闇の中のような場所です。パウロ・ティリッヒは、『信仰の本質と動態』という著書の中で次のように言っています。「信仰は、われわれが究極的に関わっている状態である。だから、信仰の動態は、究極的な関わり方の動態である」。究極的に関わっている状態とは、単純に言うと、「こんにちは」という挨拶を贈り贈られる関係のことです。挨拶を贈るとは、相手のことを承認し、受け入れ、祝福を贈ることです。つまり「あいさつ」を交わす関係とは、命と命がつながっている関係である、ということです。私たちにとって、これが究極的なこと（何よりも大切なこと）であるのです。そして、信仰は、具体的な関わり方の働き（挨拶をする、されるという具体的なこと）と共に現れる、とティリッヒは言っているのです。

イエスさまとの関わりを通して暗闇から抜け出し、自分は承認されている、受け入れられている、祝福を贈られていることをはっきり悟ったその一人の人は、神に感謝を捧げ、イエスさまのもとに戻ってきます。彼は、自分が神と、また他者とつながっていることを、自分の体で表したのです。ティリッヒは、それが信仰です、と言うのです。そしてイエスさまも言われます。「あなたの信仰があなたを救った」。他者との関わりの中で神の愛を知り（究極的な神とのつながりを知り）、他者とつながっていかうとするあなたの歩みが（信仰こそが）「救い」なのですよ、と。私たちも、他者に無関心になるのではなく、つながりを喜び、感謝し、他者とつながっていく者となっていきたい、と思います。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 5 1 番

□ 改訂 1 2 3 番

やってみよう

★立ちたくても立てない？ってどうして？を実験しよう！

☆用意する物（椅子）

- ①みんな今立って下さいといったらすぐ立つことができる？じゃあ重いものを持っていても立つことができる？（何か本でも鍋でも身近にあるものを持って立ってもらおう）
- ②今から立ちたくても立てない不思議な実験をしたいと思います。大人が見本を見せるから見てもらおう。
- ③1人が椅子に座って、もう一人が人差し指を座っている人のおでこに当てる。
座っている人に立ってもらうがなかなか立てないのを見せる。
- ④そんなことはない絶対に立てると思う人！立てない演技していると思う人！“と聞き、実験に加わってもらおう。
- ⑤友だち同士でも順番にやってみる。
- ⑥立ち上がることはわたし達の生活の中では難しい事ではないと思っているが悩みや心配事、嫌なことがあると今日学校行きたくないな～と前に進めない時あるよね。
- ⑦今日の聖書にとっても大切なことが書かれていました。「あなたの信仰があなたを救った」
神様にお任せいたします、神様見ていてくださいねと神様にお祈りしたらきっと立ち上がって前に行くことができるようになるでしょう。

話してみよう

- I. なぜ9人の人は戻ってこなかったのでしょうか。イエス様はそのことをどう思われたでしょう。
あなたはイエス様に癒されたと思ったことがありますか。
- II. 挨拶を交わすこと（あなたのことを無視しません）は、祝福を贈り合うこと（あなたの存在を受け入れます）です。祝福の言葉を自分で考えて、相手に伝えてみよう。
祝福を贈られてどんなふうに感じたか話し合ってみよう。

★今週の聖句

「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。」
ルカによる福音書 18:7

★ねらい

- ・ 神の裁き（助け）の有無を考えるのではなく、イエスさまがどこに立ち、この言葉を語られたのかを考える。

★ 説教作成のヒント

- ・ 「神さまの裁き・神さまの助け・神さまの選び」を2者択一で考えることを自制する。
例えば、クリスチャンには・・・、ノンクリスチャンには・・・というようには考えない。

★ 豆知識

- ・ 言葉とは、つねに過剰であるか（言い過ぎるか）不足であるか（言い足りないか）するものです。聖書も言葉で記されている限り、この言葉のルールから外れることはできません。この言葉のルールを知っておくことはとても大切なことです。

★ 説教

今週の聖書の中のイエスさまの言葉、「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか」（ルカ福音書18:7）は、反語（話し手が自分の考えを強く言うために、主張と反対の内容を疑問の形で表現すること）です。つまり、この後に隠されている言葉は、「そんなことはない。神さまはきっと、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために、裁きを行ってくださいな！」というものでしょう。

まとめると、「神さまは、助けを求める選ばれた人をほうっておかない。神さまは、選ばれた彼らを困難な状況におとし入れた者を裁いてくれる」ということです。

みなさんは、この言葉に、そうだそうだ！とうなずかれるでしょうか？

それとも、世界中には困っている（助けを求めている）人がたくさんいるじゃないか。だから、神さまは困っている人を助けてなんかないし、ましてや、彼らを困難な状況におとし入れた者を裁いたりしない、と思われるでしょうか？

同意されたみなさん（そうだそうだとうなずかれたみなさん）に質問です。

「この世界の中で、今この時、助けてと涙を流し訴えながらも、銃で打たれたり、ミサイルが飛んできたりして命を奪われる子どもたちは、選ばれていない人たち、ということでしょうか？」

少し考えてみてください。今、困難な状況にある人たち、助けてほしいと求めている人たちは、神さまに選ばれていない人で、今、雨風しのげる家に住んでいて、突然鉄砲で撃たれることも、ミサイルが飛んでくることもあまり心配しなくていい人たちは、・・・みなさんはきっとここにあてはまるでしょう・・・、神さまに選ばれている人たちということなのではないでしょうか？

また、神さまは困って助けを求める人たちを助けてなんかない、と思われているみなさんに質問です。

神さまに祈り求めているにもかかわらず、想像を絶する困難の中にいる人は、世界中にたくさんいます。そんな状況を見聞きしたみなさんは、絶対的な力を奮い一瞬のうちに問題を解決してくれる神さまがいない、そんなとき、どうしますか？

神さまなんかないんだから、しょうがないよね、と助けを求める人から目を背けますか？

それとも、絶対的な力を奮い一瞬のうちに問題を解決してくれる神さまはいないけど、なんとか助けて、と自分にできることをさがそうとしますか？

もう少し具体的に考えてみましょう。

東日本大地震の後に福島原子力発電所が爆発したことはみなさん知っていますよね。この原子力発電所のある（あった）大熊町、双葉町に住んでいた人たちは、これから何十年も、もしかすると100年200年も自分たちの家に帰り、そこに住むことはできません。一方で、2020年のオリンピ

ックが東京で開催することが決まりました。そのとき、私たちの国の総理大臣は、東京は自分の（国の）責任で絶対の安全を守ります、と言いました。大熊町、双葉町に住んでいた人たちは「選ばれなかった人」で、東京に住んでいる人たちが「選ばれた人たち」なののでしょうか。きっと、人の目から見ると、・・・安倍総理大臣的には・・・、そうなのかもしれません。

しかし、今日の聖書の中のイエスさまの言葉は、大熊町、双葉町の人たちのもとで叫ばれたものです。人の目からすると選ばれていないように思える人たちのもとで、イエスさまは叫ばれたのです。「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。（いやきっと神はあなたたちを助けられるにちがいない）」と。イエスさまは、簡単に問題が解決せず、どうしたらいいのか分からないと助けを求める人たちのもとに行かれ、そこで、彼らの不安と悲しみととまどいに寄り添われたのです。そして叫ばれたのです。聖書は、そのようなイエスさまの行動と言葉（叫び）が神の子として働きである、と記しているのです。もし今、みなさんの中の誰かが、困難な状況の中にいるならば、・・・困難な状況とは、簡単に解決しない問題を抱えているということです・・・、目をつぶり、今日のイエスさまの言葉に（叫びに）耳を澄ましてみてください。「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。（いやきっと神はあなたを助けられるにちがいない）」。

イエスさまは、困難な状況の中にいるあなたのもとで、そう叫ばれているのです。一緒に涙を流しながら・・・。

★分級への展開

さんびしよう

＊讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□10番

□改訂10番

やってみよう

★反対言葉遊びで聖句の意味を考えてみよう！

☆用意する物（ホワイトボード又は紙に今日の聖句を書いておく・マーカー又はペン）

- ①今日の聖書の言葉ちょっと難しいね。反対言葉にするとどんな意味になるかを初めに考えたいと思います。
- ②ボードや紙を使って反対の言葉に書き換える作業を子ども達と一緒にこなしていく。
- ③昼も夜も叫びもとめていない選ばれないひとたちのために裁きを行い、彼らをいつまでもほうっておく。え～？余計にわからなくなった・・・？。なんだか神さまってひどいお方のような意味になったね。反対言葉だから神さまってひどいお方じゃないってこと。
- ④みんなも知っている通り神さまはわたし達の見方だよね。神さまは諦めず、信じて祈っている人を知らんぷりしないよってことをいっているんだ。
- ⑤今から反対言葉を使って会話して遊んじゃおう！
ex:「今日ぼくね、教会に行かずに牧師先生に褒められなかったんだ」
「それはかなしいね」
「今から何する？」
「教会で遊ばない」・・・など、なんでも反対言葉にしてみよう！

話してみよう

やもめの人は大変なことに巻き込まれ、裁判官に助けを求めました。皆さんは誰かに助けてほしいと思うことがありますか。

そういう時は、どのようにして解決しますか。

★今週の聖句

「わたしの父の家を商売の家としてはならない。」

ヨハネによる福音書 2:16

★ ねらい

・ お金は悪いものではない。しかし、それによって人間の優劣をはかることは間違っていることを伝える。

★ 説教作成のヒント

・ 父の家（神の家）がどのような場所で、商売の家がどのような場所かをイメージする。

例) 父の家：みんなで恵みを分かち合うことのできる場所

商売の家：人よりもたくさん稼ぐことを競う場所

※ただし、現代の私たちが社会生活を営むためにお金は必要なもの、お金が「悪」ではない。

★ 豆知識

・ 私たちの周りで「お金も必要よね」という言明を耳にすることがあります。換言すると「プラスアルファ（+α）でお金も必要」ということでしょうか。さて、神さまのことをギリシャ語で「テオス」というのですが、この単語に「プラスアルファ（+α）」して、「アテオス」とすると、「（私は）神を知らない」という意味になります。「プラスアルファ」を求める心が、ときとして、大切なことと反対のものを覚えてしまう目につながってしまうのかもしれない。

★ 説教

小学校（中学校）では、教えてくれない話しをしよう。

お金（貨幣）の本質（なくてはならない意味、役割）とは何か、というお話です。

お金とは、交換を加速するため（はやめるため）に発明されました。お金（貨幣）は、・・・みんながもう少し大人になって経済学の本を読むと、学者さんたちが書いているのですが・・・、「それを別の何かと交換しない限り、何の意味も持たない」という性格を持っている、もののことです。

お腹が空いてもお金を食べることはできません。喉が渴いてもお金を飲むことはできません。寒くなってもお金を着ることはできません。etc.

お金は、私たちの欲しいもの（食べもの、飲みもの、着るもの、etc.）と交換するために、そのために発明されたのです。というのも、ナニカを交換するに際して、お金は、たいへん効率の良い商品だからです。それを持ち続けていても食べものに変化したり、飲みものや着るものにならなくなったりしません。それをナニカと交換することで、ようやく私たちは必要なものを手にいれることができたりするわけです。交換を加速するための商品、それがお金です。

さて次に、「なぜ学校で勉強するのか」、ということを考えてみましょう。

はっきり言う人が少ないので、この際だからはっきり言っておこうかな。それはね、「生き延びるため」です。もう少し付け加えるならば、「なるべく楽しく生き延びるため」です。

ここでもうひとつ付け加えておかなければいけません。聖書にも書いてあるように、「人が独りでいるのはよくない@神さま」、人は独りでは生きていくことができません。だから、「生き延びるため」ということは、「私だけが」ではなく「私たちが生き延びるために」という意味です。

私たちは、「私たちが（できるならばなるべく楽しく）生き延びるために」勉強するのです。

そして、「できるだけ多くの人たちを私たちという枠で考え、その人たちが楽しく（喜びをもって）生きていくためにどうしたらよいか」と考え、働く人たちを大人と呼ぶのです。

だけど、最近の社会では、年収の高い低いで「生き延びるための」能力を（優劣を）測る傾向が強くなっているようです。ある大きな会社の社長は次のように言いました。「Grow or Die（成長か<生きるか>死か）・年収1億円か100万円か」と。ものを交換するために発明されたお金が、人の優劣をはかるものさしに変わってしまっているのです。「お金をたくさん稼ぐために勉強する（働く）」という大人が増えたが故に、そう考える子どもたちも増えているのでしょう。

イエスさまは言われました。「わたしの父の家を商売の家としてはならない」。ここで言われている

「わたしの父の家」とはエルサレム神殿のことですが、しかし私たちは、ここを、私たちの住んでいる社会と解釈し直したいと思います。私たちの住んでいる社会を、年収1億円か100万円かで生きるか死ぬかが判断される場所にしてはいけない、と。

ところで、みなさんは、『スイスのロビンソン』という本を知っていますか。それはこんなお話です。ある一家が無人島に漂着します。彼らはそこでロビンソン・クルーソーのような暮らしをするという物語です。無人島ですから、年収が1億円か100万円かなんていうことは無意味です。そんなものどれだけ持っていたても、生き延びることはできません。さて、その物語の冒頭近くに、一家が無人島に漂着した後、海岸でみんなで魚介類を集めてブイヤベース（スープ）を作るという場面があります。スープはできたのですが、お皿もスプーンも人数分はありませんから、みんなでわずかな食器を使い回して飲んでいました。すると、子どもの一人がおおぶりの貝殻をとりだして、ずるずるとスープを飲み始めます。そして、それを見た父親が子どもに問いかけます。「お前は貝殻を使うとスープが飲めることに気づいたのだね？」子どもは誇らしげに「そうです」と答えます。すると父親は厳しい顔をしてこう言ったのです。「では、なぜお前は貝殻を家族の人数分拾い集めようとせずに、自分の分だけを拾ってきたのだ。お前にはスープを飲む資格はない」。

この物語は、「できるだけ多くの人たちを私たちという枠で考え、その人たちが楽しく（喜びをもって）生きていくためにどうしたらよいか」を考え実行することがどのようなことであるかを、教えてくれます。そして、聖書の中で、イエスさまもまたそのことを、私たちに教えてくれているのです。私たちの生きていくこの場所が、商売の家にならず、神さまの国になるために。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□4番

□改訂115番

やってみよう

★教会でお金を儲けようとするとうなる？

☆用意する物（厚紙で作ったお金・・・みんなで作ってもよい）

- ①教会にはいろんな人が（働いている）いるけどどんな人いる？「牧師さん」「お昼ごはんを作っているおばさん」「教会学校を手伝ってくれるお兄さんお姉さん」「玄関を掃いてくれたおばあちゃん」「門の所の木の枝を切っていたおじいちゃん」と子ども達に言ってもらう。
- ②朝から教会で働いている人にお小遣いをあげてこよう。それぞれお金を手に働きに対して賃金を支払う。
- ③前もって教会にいる方に賃金をもらったら「こうするからもっとお金ちょうだい」とお金儲けの為の演技をしてもらい賃金を沢山貰うように頼んでおく
- ④お金を配り終わった子を集め、お金をもらった大人も呼ぶ。お金をもらった大人同士で貰った金額の事で喧嘩をしてもらう。
- ⑤いつも仲良く教会のお仕事している人達がお金を儲けたとたん喧嘩になったね。どうして？なんでいつもお金貰わないで働いているの？
- ⑥信徒の一人に神様の御用の為に働くことが嬉しいのだよという話をしていただく。

話してみよう

「商売の家としてはならない」とおっしゃるイエス様。では、どのような神殿（教会）であれば良いと思われたのでしょうか。

私達はどのような教会を作っていけばよいのでしょうか。